

高等学校

平成25年度

教育研究員研究報告書

家庭

東京都教育委員会

目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の視点	2
III	研究の仮説	2
IV	研究の方法	2
V	研究の内容	4
VI	研究の成果	23
VII	今後の課題	24

家庭部会	自立した生活を営むために必要な思考力・判断力・表現力を育む学習活動を活性化させる評価方法の工夫
-------------	---

I 研究主題設定の理由

文部科学省は、平成 25 年度入学生から年次進行において新学習指導要領を実施するに当たり、平成 25 年 4 月 1 日付 25 文科初第 17 号「高等学校等の新学習指導要領の実施に当たって（通知）」において、改めて以下の 7 点に留意するよう示した。

- (1) 新しい学習指導要領の趣旨を改めて確認し、その実現に努めること
- (2) 言語活動を充実する趣旨を確認し、各教科等の目標と関連付けた効果的な指導を行うこと
- (3) 見通しを立てたり、振り返ったりする学習活動を重視すること
- (4) 義務教育段階での学習内容の確実な定着を図る工夫をすること
- (5) 指導方法や指導体制を工夫改善し、個に応じた指導の充実を図ること
- (6) 学校全体として、指導に関する検証改善サイクルを確立すること
- (7) 人間としての在り方生き方に関する教育を学校の教育活動全体を通じて行うことにより、道徳教育の充実を図ること

(2) に示されたように新学習指導要領では、各教科において、説明、論述、討論、記録、要約等の言語活動の充実を図ることを定めており、各教科の目標に即して、基礎的・基本的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成を行うための手だてとして、言語活動の充実に取り組むこととしている。教科指導に当たっては、言語活動を適切に位置付け、授業の構成や指導の在り方を工夫改善していくことが重要となる。また、(6) において、学習評価を通じて、学習指導の在り方を見直すことや個に応じた指導の充実を図ること、学校における教育活動を組織として改善することが重要であるとし、引き続き、観点別学習状況の評価を実施し、きめ細かい学習指導と生徒一人一人の学習の確実な定着とともに、日々の指導の改善・充実を図り、教育の質を向上させていくことが重要であることを示している。

評価については、「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校 共通教科「家庭」）」（平成 24 年 3 月 国立教育政策研究所教育課程研究センター）において、様々な評価方法の中から、その場面における生徒の学習状況を的確に評価できる方法を選択することが必要であるとし、ワークシート等の記述内容は、「知識・理解」の評価だけでなく、「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」、「技能」の評価にも活用することが可能であり、生徒の資質や能力を多面的に把握できるように工夫し、活用することが考えられるとしている。

以上のことを踏まえ、平成 25 年度の教育研究員は、習得した知識・技術を活用して問題解決するために必要な思考力・判断力・表現力を育む学習活動として、自己の考えを整理しワークシートに論述させることを繰り返し行う学習活動を重視することとした。思考力・判断力・表現力を育む学習活動を活性化させるための学習評価の工夫として、学習目標を明確に示し、その学習目標の達成状況を把握するために、自己評価や相互評価を行うこととした。

新学習指導要領における共通教科「家庭」は、生涯を見通して主体的に生きる力を育成し、家庭や地域の生活を創造できるようにすることを目指し、衣食住生活、消費生活など生活の自立を図ることや生活の充実向上を目指した問題解決能力を育成することをねらいとしている。生徒自

身が現在及び将来の生活を自立的に営むことができるよう「自立した生活を営むために必要な思考力・判断力・表現力を育む学習活動を活性化させる学習評価の工夫」を研究主題として授業実践に取り組むこととした。

II 研究の視点

本年度の高等学校部会全体のテーマは、「思考力・判断力・表現力等を育む学習活動を活性化させる学習評価の在り方」である。

家庭科における言語活動の充実を図る学習活動として、①知的活動に関することとして、合理的な判断力や創造的思考力、問題解決能力の育成を図るため、実験・実習等を通して衣食住など生活における様々な事象や科学性を説明する活動や判断が必要な場面を設けて理由や根拠を論述したり、正解が一つに絞れない課題を考える際、最適な解決方法を探究したりする活動、②他者とのコミュニケーションに関することとして、人が他者との会話を通して考えを明確にし、自己を表現し、他者を理解し、他者と意見を共有し、互いの考えを深めることを通して協同的な関係を築くような活動、③感性や情緒に関することとして、衣食住などの生活における様々な事象やものづくりなどに関する実践的・体験的な活動を一層重視し、その過程で様々な語彙の意味を実感を伴って理解させるような学習などが求められている。本研究では、②に示されている学習活動を意識し、より学習活動を活性化させる評価方法の工夫について検証する。

III 研究の仮説

生徒が自立した生活を営むために必要な思考力・判断力・表現力を育む学習活動を活性化させるために、生徒に学習目標とその学習目標のよりよい達成状況を評価規準として説明し、学習目標に応じた評価規準を適切に設定し、評価することが重要であると考えた。適切に評価するためには、教師が学習目標の達成状況を生徒との対話や観察等から評価し、学習目標の達成に向けて指導することが重要である。また、思考力・判断力・表現力を育むために、これまでの学習を振り返りながら、生徒が順序立てて考察したことを論述したり、グループ学習等における他者との意見交換を通して様々な考えを共有し、新たな気付きについて論述させることができるワークシートを作成する必要があると捉えた。以下に本研究の仮説を示す。

- 1 自己の考えを整理し論述する学習活動を繰り返し展開することで、自己の思考を深め、表現することができるようになる。
- 2 生徒に学習目標のよりよい達成状況を示し、教師が学習目標の達成状況を適切に評価し指導することで、学習目標の達成に向けた学習活動がより活発になる。

IV 研究の方法

授業を展開するに当たり、授業の始めに何を学ぶのか学習目標や授業のねらいを示すとともにどこまでできることが求められているのか、学習目標のよりよい達成状況（評価規準）について生徒に理解できるよう説明することにした。生徒が学習目標を理解した上で、思考を深めたり他者の意見を聞いて新たに気付いたことなどについて整理し論述した内容を、教師が学習目標の達成状況に基づいて評価することで、思考・判断力・表現力を育むことができたかどうか検証することとした。また、生徒による自己評価や相互評価を行い、一人一人の生徒の学習目標の達成状況について生徒にも確認させることとした。

1 高校生として子育てに関する思考を深めるための学習活動の工夫と評価規準の設定

保育分野の学習のまとめとして、「子供・子育てを取り巻く問題を考える」を題材に設定した。学習目標を、「①子供・子育てを取り巻く問題について、論述したり討論や発表することによって、考えを深めることができる」、「②子供・子育てを取り巻く問題について、主体的に取り組める資質を養う」とし、子供・子育てを取り巻く問題について、新聞記事などを活用したグループ学習を取り入れ、考えを深めさせることとした。今までの、「思考・判断・表現」の観点の評価は、グループでの話し合いを重視し、話し合いを通して考察した記述内容を中心に評価していたが、生徒一人一人の考えの変容などを読み取るのが十分ではなかった。そこで、学習目標に基づいて、個々の考えを整理させてからグループ学習を行い、地域社会の一員として子供・子育てを取り巻く問題について思考を深められたか、ワークシートの記述内容、発表内容、自己評価及び相互評価の内容から検証した。

2 消費者として契約について理解を深めるためのワークシートの工夫と評価規準の設定

消費生活の学習において、契約について理解させるとともに、視聴覚教材を活用し、消費者問題が身近なものであり、被害に遭わないためにも対策を講じることの重要性について理解させることとした。

学習目標を、「契約や消費者トラブルについて理解し、被害に遭わないためにはどうすればよいか考える」とし、今までは、自分の考えを記述したり、発言したりすることが苦手な生徒が多く、「思考・判断・表現」の観点について評価する機会が十分ではなかった。今回は、消費者トラブルについて理解し、適切な対応について考え、文章でまとめることができるよう、ワークシートに自分の考えを表現できるよう記述欄を多く設けることとした。また、他者の意見を記述させる欄を設け、他者の考えを聞くことで、より自己の考えを深めさせることとした。ワークシートの記述内容、発言、自己評価から本時の学習目標の到達度を把握することとした。

3 家族・家庭生活と職業について、自己の考えを深めるグループ学習の工夫

家族・家庭生活と仕事の在り方について「あなたが家庭を築いたとき、どのような働き方をしたいか」について、グループ学習を通して自己の考えを深めさせることとした。

学習目標を、将来の働き方や男女共同参画社会について考えることを通して、将来の自立した生活の創造に向けて、「労働の重要性を理解し、将来の働き方を選択できるようになろう」とした。学習前の事前の調査では、生徒の約9割は将来結婚したいと考えているなど、今後の家族像をはじめ自己の生活設計において希望と夢を抱いていることがよく分かった。今までの「思考・判断・表現」の観点については、個々に生活設計プランを作成させたりすることを中心に評価をしていた。今回は、グループ学習を通して、自分の考えを他者と共有したり、他者の考えを知ることによって自己の考えを振り返り、新たな気づきについて表現させることで将来の生活設計について考えを深めさせることとした。

4 高齢期の生活の学習から自己の生活課題の意識を向上させる学習方法と評価の工夫

高齢期の生活に関する学習を通して、人の一生を見通すとともに、高齢期についてより関心をもたせ、具体的に理解を深められるように、学校所在地地域の人口を基に高齢社会の現状を把握させるよう工夫して授業を行うこととした。

学習目標を、「高齢社会の現状を理解し、年金制度について考える」とし、今までの「思考・判断・表現」の観点は、ワークシートに学習内容を整理し理解することを通して個々の考えを

記述させることで評価していた。今回は、初めて授業でグループ学習を取り入れ、年金制度について、グループの話合いを通して他者の意見を共有し、自らの考えを整理しまとめることができることを重視した。生徒の話合いの様子、発表、ワークシートの記述等を通して高齢者が安心して生活できるよう、個人や家族だけではなく、社会全体で支えることの必要性について認識できたかどうか、評価することとした。

V 研究の内容

全体テーマ 『学習指導要領に対応した授業の在り方』

高校部会テーマ 『思考力・判断力・表現力等を育む学習活動を活性化させる学習評価の在り方』

思考力・判断力・表現力等を育む学習活動の現状

- ・衣食住などの生活における様々な事象や科学性を説明させたり、判断が必要な場面を設けて理由や根拠を論述させたりする学習活動が少ない。
- ・課題に対して考えさせて、最適な解決方法を探究させたりする学習活動が十分でない。
- ・他者と意見を共有したり互いの考えを深めることを通して協同的な関係を築く学習活動が少ない。

学習活動の取組に対する学習評価の現状

- ・学習目標に応じた明確な評価規準の設定ができていない。
- ・多様な評価方法を用いてその都度評価するため、一人ひとりの評価に時間を要する。
- ・自己評価や生徒同士の相互評価を取り入れているが、教師が生徒の変容を見とるために有効に活用していない。

現状から見えてきた課題

- ・「思考・判断・表現」の観点について、習得してきた知識・技術を活用し、生徒がよく考え記述できるようワークシートの設問が十分に精査されていないため、ただ記述することで生徒に達成感や満足感を与えている。
- ・生徒に学習の目標を意識させ、自己の思考の変容を確認させる自己評価を行う必要がある。

家庭部会主題

自立した生活を営むために必要な思考力・判断力・表現力を育む学習活動を活性化させる評価方法の工夫

仮 説

- ・自己の考えを整理し論述する学習活動を繰り返し展開することで、自己の思考を深め、表現することができるようになる。
- ・生徒に学習目標のよりよい達成状況を示し、教師が学習目標の達成状況を適切に評価し指導することで、学習目標の達成に向けた学習活動がより活発になる。

具体的方策

- ・学習活動ごとに記述できるワークシートを作成し、他者の意見や考えを通して新たな気づき等について記述させる。
- ・学習目標と「十分に満足できる」状態の評価規準について説明し、学習の取り組み方について理解させる。
- ・自己評価や相互評価を通して、授業を振り返り、どの程度学習目標が達成できたかどうか判断させ、次の学習活動につなげる。

評価・検証

- ・学習活動ごとに記述した内容から生徒の思考の変容を読み取る。
- ・学習目標を明確に示した場合とそうでない場合の生徒の学習意欲、学習活動への取組やワークシートの記述内容の違いから生徒の変容を読み取る。
- ・授業に対するアンケートの記述内容や自己評価における授業内容に対する理解度から生徒の変容について読み取る。

実践事例 1

科目名	家庭基礎	学年	2 学年
-----	------	----	------

(1) 単元（題材）名、使用教材（教科書、副教材）

- ア 単元名 第1部 人生を見直し共に生きる 2章 子どもと共に
 イ 教科書 「家庭基礎 明日の生活を築く」
 ウ 副教材 「2013 最新生活ハンドブック 資料&成分表」

(2) 単元（題材）の指導目標

- ・ 乳幼児の心身の発達の特徴、乳幼児の遊びや生活習慣の形成などの乳幼児の生活及び乳幼児を支える親、家族の役割、保育責任について理解する。
- ・ 子供を生み育てることの意義について考え、子供の健やかな成長のために家族や地域、社会の果たす役割について認識する。
- ・ 子供と適切に関わり、子供とのコミュニケーション能力を高めることの必要性について理解する。

(3) 単元の評価規準

ア 関心・意欲・態度	イ 思考・判断・表現	ウ 技能	エ 知識・理解
①子供の発育や発達、権利や福祉について関心を持ち、学習に取り組もうとしている。 ②実践的・体験的な活動を通して、保育に関する関心を持ち、学習に取り組もうとしている。 ③保育の重要性や社会の果たす役割について意欲的に考えようとしている。	①子供の生活や遊びの意義、児童文化財の子供への影響について、考えまとめている。 ②親の役割や子供を生み育てることの意義について考え、まとめている。 ③近年の少子社会における子供を取り巻く環境の変化やそれに伴う課題について考え、まとめたり、発表したりしている。	①乳幼児の生活や遊びに関する体験学習を通して、必要な技術を身に付けている。 ②児童館での体験実習で、乳幼児親子と触れ合ったり、子供の発達の実際の姿について、観察したりすることができる。 ③近年の少子社会における子供を取り巻く環境の変化やそれに伴う課題について、情報を収集・整理することができる。	①子供は生活の中で人との関わりを通して育つことを理解している。 ②乳幼児期は人の発達段階において重要な時期であること、家庭生活が果たす役割の重要性について理解している。 ③子供の生活の概要、子供の発達と遊び、環境との関わりについて理解している。 ④子供を取り巻く環境整備と社会全体で子育てを支援する必要性について理解している。 ⑤子供の権利と福祉について理解している。

(4) 単元（題材）の指導と評価の計画（12時間扱い）

時間	学習活動	評価の観点				評価規準 (評価方法など)
		関	思	技	知	
第一次	子供の誕生と発育（1時間） ・子供の誕生、乳幼児の発育の特徴について知る。 ・VTR「生命の誕生～命を育む～」を視聴し、妊娠・出産・乳児の特徴を確認し、乳児期の父親の育児参加について考える。	●			● ●	・子供の誕生や発育について関心を持ち、学習に取り組もうとしている。（発言・観察） ・子供は生活の中で人との関わりを通して育つことを理解している。（ワークシート）

時間	学習活動	評価の観点				評価規準 (評価方法など)
		関	思	技	知	
第一次	子供の発達（1時間） ・乳幼児の発達の特徴を知り、その重要性を理解する。 ・発達の道筋を理解する。 ・乳幼児期の発達の変化をまとめる。	●			●	・子供の発育や発達、権利や福祉について関心をもち、学習に取り組もうとしている。 (発言・観察) ・乳幼児期が人間の発達段階において重要な時期であること、家庭生活が果たす役割の重要性について理解している。(観察・ワークシート)
第二次	子供の生活と遊び（4時間） ・子供の生活習慣について考え理解する。 ・子供の食事と衣服について知る。 ・子供の健康管理と安全について理解する。 ・子供の遊びについて考え理解する。 ・「パパ・ママ体験」を通して、妊婦の生活、乳児の世話、子供の遊び、安全について理解を深める。 ・乳児の抱き方、絵本の読み聞かせなど、乳幼児との触れ合い体験に必要な技術を身に付ける。	●	●	●	●●●●	・子供の生活の概要、子供の発達と遊びや環境との関わりについて理解している。(観察・ワークシート) ・実践的・体験的な活動を通して、保育に対する関心をもち、学習に取り組もうとしている。(観察) ・子供の生活や遊びの意義、児童文化財の子供への影響について考え、まとめたりしている。(ワークシート) ・乳幼児の生活や遊びに関する体験学習を通して、必要な技術を身に付けている。(観察)
第三次	親と社会の役割と保育（1時間） ・生み育てること、両性が関わることの意義について考え理解する。 ・子供の人間形成と親の役割について理解する。 ・家庭保育と集団保育について知る。 ・子育てに関わる社会の役割を理解し、子育て支援について知る。 子供期の保障と子供の福祉（1時間） ・変化する子供の環境について考え理解する。 ・子供の権利について理解する。 ・子供の福祉について理解する。	●			●●●●	・保育の重要性や社会の果たす役割について考えようとしている。(発言・観察) ・子供を取り巻く環境整備と社会全体で子育てを支援する必要性について理解している。(発言・ワークシート)
第四次	乳幼児親子との触れ合い体験（児童館での体験学習）（2時間） ・乳幼児親子とともにリズム遊び、手遊び、絵本の読み聞かせなどを行う。 ・乳幼児親子と交流し、乳幼児と触れ合ったり、親が子供と関わる様子を観察する。 ・体験し、考えたことをまとめる。	●	●	●	●	・実践的・体験的な活動を通して、保育に関する関心をもち、学習に取り組もうとしている。(観察・レポート) ・親の役割や子供を生み育てることの意義について考え、まとめたりしている。(レポート) ・児童館での体験実習で、乳幼児親子と触れ合ったり、子供の発達の実際の姿について、観察したりすることができる。(観察・レポート)
第五次 (本時)	子供・子育てを取り巻く問題を考える（2時間） ・班で選んだテーマ（「父親の育児参加」「子供・子育てで家庭の支援」「子供・子育ての環境」）に関する資料をまとめ、討論・発表・自己評価及び相互評価をする。	●	●	●		・近年の少子社会における子供を取り巻く環境の変化やそれに伴う課題について、情報を収集・整理することができる。(ワークシート) ・保育の重要性や社会の果たす役割について考えようとしている。(観察) ・近年の少子社会における子供を取り巻く環境の変化やそれに伴う課題について考え、まとめたり、発表したりしている。(観察・ワークシート)

(5)本時 (全12時間中の11・12時間目)

ア 本時の目標

- (ア) 保育分野の学習のまとめとして、子供・子育てを取り巻く問題について、論述したことを他者に伝えることで自己の考えを整理し、思考を深める。
- (イ) 子供・子育てを取り巻く問題について高校生としてできることを考え、班で討論・発表し、他者の発言や相互評価を受けて、再度、自己の考えを深める。

イ 本時の展開

過程	時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準・方法 (ア～エ)
導 入	10 分	<ul style="list-style-type: none"> 前時の学習を振り返り、宿題を確認する。(宿題：A～Cの3つのテーマから、子供・子育てを取り巻く問題に関する新聞記事を用意しておく。) A：父親の子育て参加について B：地域や社会の子育て支援について C：現代の子供や子育て家庭を取り巻く環境の問題 本時の学習活動と学習目標を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 準備した資料と宿題（資料の要点に赤線を引く）、本時の課題を確認させる。 資料の準備をしてこなかった生徒のために、資料（新聞記事）を用意しておく。 学習の流れを提示する。 本時のねらい、評価規準を説明し、学習を通して自分の考えを深めるよう意識させる。 	ウー③ (ワークシート)
子供・子育てを取り巻く問題について、地域社会の一員として何ができるか考えよう				
展 開	40 分	<ul style="list-style-type: none"> 準備してきた資料の概要をまとめる。感想・考察を論述する。 <p>班員同士の発表</p> <ul style="list-style-type: none"> 班の中で一人ずつ、資料の概要と感想・考察を発表する。 自己評価及び相互評価を行う。 他者を評価して、また、他者から評価・講評を受けての考察、新たな気付きについてワークシートに論述する。 	<ul style="list-style-type: none"> ICTを使い、学習の流れを説明する。 ワークシートの記入について、資料の内容を正確につかむこと、論述すること、箇条書きでもよいことを伝える。 ワークシートの記入は15分間であることを伝える。 出席番号順に一人2分以内で簡潔に発表することを伝える。 自己評価及び相互評価の基準を伝える。 発表ごとに評価表に記入させる。(相互評価表) 班全員が終了したら相互評価表を交換しワークシートに貼り付けさせる。 ワークシートに他者から評価・講評を受けての考察、新たな気付きについて記入させる。具体的に記述するよう指示する。10分間で論述することを伝える。 2時間目の学習内容、目的、評価規準を説明し、意欲的に取り組ませる。 討論しやすいようにサブタイトルを設定してもよいことを説明する。 ワークシートに記入させる。 	イー③ (ワークシート) イー③ (発表) アー③ (観察)
	40 分	<p>班で選んだテーマにおける、現状と問題点</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後の方策・改善策・自分たちにできることについて討論する。 討論したことをワークシートに記入する。 全体発表の準備をする。 	<ul style="list-style-type: none"> サブタイトルがある場合はカードを作成させる。 発表の順番と、一人1回以上は発言すること、発表時間は1班2分であることを伝える。 サブタイトルがある場合は掲示するよう指示する。 	イー③ (ワークシート) イー③ (ワークシート)

過程	時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準・方法 (ア～エ)
		・班で討論した内容をまとめて発表する。	・発表ごとに内容の記録・評価・評価の理由をワークシートに記入させる。	イー③ (発表 ・ワークシート)
まとめ	10分	・本時の学習を振り返り、学習目標を達成できたかどうか考える。 ・班での討論、クラス発表を終えての考察・新たな気付きについてワークシートに論述する(宿題)。 ・次回の授業と準備するものを確認する。 ・ワークシートを提出する(提出できる生徒)。	・全体発表の講評をする。 ・必要に応じてパワーポイント等を使って補足説明をする。 ・ワークシートの記入について、授業内容を整理し本日中にまとめ、明日、係に提出するよう伝える。 ・今後も興味・関心を広げ、学習したことを生かしていくように指導する。 ・次回の授業の予告と準備するものを伝える。	

(6) 本時の振り返り

- ア 本時の授業は、事前に三つのテーマを提示し、班で一つ選んで、それに基づき各自が資料を収集することを宿題とした。ワークシートには、具体的な授業のねらいを示すとともに、収集した資料を基に取り組む学習活動(1～5)について記述させた。(下のワークシート①)
- 授業の始めに何を学ぶのか授業のねらいを示すとともにどこまでできることが求められているのかを説明し、子供を取り巻く問題について、高校生が地域のリーダーとなって考え、意欲的に関わりをもつことができるよう、声掛けをしながら授業を展開した。

<p>ワークシート①(本時の1時間目で記述する。2時間目は、クラス内の発表についてワークシートを配布、記述する。)</p> <p>*本時のねらい：○子供・子育てを取り巻く問題について、論述したり、討論や発表することによって、考えを深めることができる。</p> <p>○子供・子育てを取り巻く問題について、主体的に取り組める資質を養う。</p>			
<p>1 資料の概要(内容を正確に把握しまとめる。箇条書きでもよい。)</p> <p>2 感想・考察(論述する。)</p> <p>3 自己評価(発表を振り返り、評価する。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・準備した資料は、テーマに対して適切であったか ・資料の概要は分かりやすく、要点を押さえていたか ・感想、考察はよく考えているか ・声の大きさ、話す速さ、発表時間は適切であったか ・考察(発表の内容、話す速さ、発表時間は適切であったか) <p>4 相互評価(評価表を受け取り、貼り付ける。)</p> <p>5 他者の発表を聞いて評価したり、他者から評価・講評を受けての考察、新たな気付きについて論述する。</p>			
①	学習目標の達成状況(十分満足できる)	②	学習目標の達成状況(十分満足できる)
1～2のよりよい状況	<input type="checkbox"/> 準備した資料がテーマに対して適切である。	3～5のよりよい状況	<input type="checkbox"/> 自己評価、相互評価、感想、講評を適切に記入している。
A・B・C・D	<input type="checkbox"/> 概要は、内容を正確につかみ、要点を押さえてまとめている。	A・B・C・D	<input type="checkbox"/> 他者からの評価、講評を受けての感想、気付きが十分にできている。(記述欄の8割以上の記入がある)
	<input type="checkbox"/> 感想・考察がよくまとめられ、十分な分量(8割以上)を記入している。		
<p>A…よくできている B…できている C…もう少し D…努力が必要</p>			

- イ 生徒は、班で選んだテーマに基づいて資料を収集して授業に臨み、限られた時間で集中して論述し、発表に取り組んだ。ワークシートについては、「十分な分量(8割以上)を記入する」を達成しようと大変意欲的に課題に取り組む様子が見られた。論述の時間に不足を感じた生徒もいた。
- ウ 班で発表したり、各自の論述した内容を基に討論し発表することで、一つのテーマに対して、様々な考え方や課題があることが分かり、自分の考えを整理し、深めることができた。

発表項目の「今後の改善策」では、「自分たちにできること」という視点について、やや不十分なところもあり、討論や発表の時間配分とともにワークシートを工夫するなど改善も必要であると感じた。

(7) 成果と課題

ア 授業後のアンケート結果について

アンケートの設問	生徒の回答(生徒数 38名)
1 論述や発表が多い授業を行いました、「子供・子育てを取り巻く問題」について、自分の考えは深まりましたか？	A 大変深まった 23% B やや深まった 62% C わからない 10% D あまり深まらない 5%
2 ワークシートに、学習目標の達成状況を示すことによって、『子供・子育てを取り巻く問題』について意欲的に論述したり考察したりできましたか？	A 大変意欲的に取り組めた 21% B やや意欲的に取り組めた 56% C わからない 18% D 達成状況は意欲に関係しない 5%
3 発表の際、自己評価や相互評価を行うことによって、『子供・子育てを取り巻く問題』について、自分の考えは深まりましたか？	A 大変深まった 28% B やや深まった 51% C わからない 15% D あまり深まらない 5%
4 その他『子供・子育てを取り巻く問題を考える』授業について、感想・意見などがあれば記入して下さい。 ・自分たちで考えて発表することによって、将来のことを考える人が増えるよい機会だと思った。 ・もっと子供と触れ合ってみたいと思うようになった。 ・この分野は、家庭科の授業を通して知る機会がほとんどなので、もっと意欲的に取り組めばよかったと反省している。 ・2時間という短い時間だったので、もっと理解を深めたい！と思ったときは授業が終わってしまった。今後もこの問題について考えていきたい。 ・ワークシートを記入する時間がもう少し欲しいと思った。	

アンケートの結果から、論述させる学習活動を増やし、論述を基にした発表学習、自己評価や相互評価を行うことで、生徒の思考を深めることができたことと認識できる。また、教師は生徒の記述内容の傾向について適切に把握、評価した上で、次の学習活動について指導することが重要である。

また、学習目標の達成状況について生徒に説明し示すことは、生徒が授業に意欲的に取り組めるきっかけになっていることが分かった。

イ 具体的な生徒の記述内容

生徒が記入したワークシートの記述内容はおおむね良好であったが、保育分野のまとめの授業としては、もう少し踏み込んだ内容を期待したいものも少なくなかった。以下に生徒のクラス発表を終えての考察、新たな気付きについての一部を示す。

- ・子育てを取り巻く問題についてこんなに多くの問題があるとは思っていなかった。解決しにくい問題が多い中、他の班の人は解決策をうまく考えているところがあって、きっと、もっと自分にできることがあるのではなかと考えさせられた。自分たちで調べた内容について、もっと考えを巡らせて少しでも解決に向かうといいなと思った。自分で思っていたよりも知っていることの方が少なく、もっと機会があれば学びたいと思った。将来の自分や周りの役に立てるようにこの授業を生かしていきたいと思った。
- ・他の班の発表が聞けて自分がテーマに選ばなかったものの、問題、それに対する対策について少しだけ知ることができた。(中略) 国に頼らなくても、私たち高校生ができるボランティアだったり、近所同士で何とかできることもあると思うので協力したいです。

実践事例 2

科目名	家庭基礎	学年	1 学年
-----	------	----	------

(1) 単元（題材）名、使用教材（教科書、副教材）

- ア 単元名 消費行動を考える
- イ 教科書 「家庭基礎 パートナーシップでつくる未来」

(2) 単元（題材）の指導目標

- ・ 契約や様々な消費者問題について理解し、被害に遭わないためにどうすればよいか考え、適切に判断し行動できるようになる。
- ・ 家計管理の重要性や家計と経済との関わりについて理解し、生涯の経済計画を立てられるようになる。

(3) 評価規準

	ア 関心・意欲・態度	イ 思考・判断・表現	ウ 技術	エ 知識・理解
単元 の 評価 規準	生活における経済の計画、消費行動と意思決定、消費者の権利と責任などに関心を持ち、意欲をもって学習活動に取り組んでいる。	消費生活についての課題を見だし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、表現している。 自立した消費者としての家庭経済の管理や計画について思考を深めている。	自立した消費者としての家庭経済の管理や計画に関する情報を収集・整理している。	生活における経済の計画、消費行動と意思決定、消費者の権利と責任などについて理解し、適切な意思決定に基づいて責任をもって行動できるようにするために必要な基礎的・基本的な知識を身に付けている。

(4) 単元（題材）の指導と評価の計画（4 時間扱い）

時間	学習活動	評価の観点				評価規準 (評価方法など)
		関	思	技	知	
第一次 (本時)	・ 契約と消費者トラブルについて理解し、トラブルから身を守る方法を考える。(2 時間)	●	●		●	・ 契約や消費者問題について理解し、自立した消費者として行動しようとしている。(観察、ワークシート) ・ 消費者問題について考え、適切な対応をまとめたり、発表したりしている。(観察、ワークシート)
第二次	・ 生涯の経済計画、家庭の経済生活の諸課題について考える。(2 時間)	●		●	●	・ 生涯を見通した家計管理の在り方を考え、家庭の経済生活の諸課題についての具体的な事例を収集、整理することができる。(観察、ワークシート)

(5) 本時（全 4 時間中の 1・2 時間目）

ア 本時の目標

- (ア) 契約や悪質商法などの消費者トラブルについて理解する。
- (イ) 被害に遭わないためにどうすればよいか考え、文章で表現することができる。

イ 本時の展開

過程	時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準・方法 (ア～エ)
導入	5分	<ul style="list-style-type: none"> 本時の目標を把握し、本時の活動内容について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の目標を板書し説明する。 学習目標の達成状況について説明する。 学習を通して自分の考えを深めるよう意識させる。 	
契約について理解し、トラブルから身を守るためにはどうすればよいか考えよう。				
展開	70分	<ul style="list-style-type: none"> 契約について理解する。 ワークシートの架空請求メールを読み、自分だったらどうするか考えて記入する。 架空請求、悪質商法（キャッチセールス）についての視聴覚教材「悪質商法ネタばらし～若者を狙うだましの手口」を視聴し、被害者の行動の問題点と対応策について考える。 <p>*ケース1への対応*</p> <ul style="list-style-type: none"> 架空請求メールの不審な点を挙げ、相談者へのアドバイスを考え、発表する。 他者の発表を記録する。 <p>*ケース2への対応*</p> <ul style="list-style-type: none"> キャッチセールスの被害に遭いそうな場面でのどのように対応するか考え発表する。 他者の発表内容について記録する。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートの設問を見ながら、考えさせる。 数人の生徒に発表させる。 DVDを途中で停止し、問題点と対応策を二つずつ考えさせる。 消費生活センターの相談員になったつもりで、五つ以上考えさせる。 発表した生徒の発言内容を板書し、発言を聞いている生徒がワークシートに記述できるようにする。 他者の発表を記録できているか確認する。 時間配分に留意し、多くの生徒に発表させる。生徒の発表内容は板書し、生徒がワークシートに記述できるようにする。 	ア、イ (観察・ワークシート) ア、イ (観察・ワークシート)
まとめ	15分	<ul style="list-style-type: none"> 様々な消費者トラブルについての対応策を考え、発表する。 他者の発表を記録する。 自己評価を行い、今日のまとめを記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートに示している学習目標の達成状況について再度説明し、他者の発言等から新たに気付いた点についても、整理しまとめさせる。 自己評価についても、設問をよく確認させる。 回答の理由も記述させながら、個々の状態に応じた支援を行う。 	ア、イ、エ (観察・ワークシート)

(6) 本時の振り返り

ア 視聴覚教材や実際の架空請求メールを使用することで生徒の理解を促すことができ、ワークシートの最後の自己評価においても、目標への達成率が高い生徒が多かった。その一方で、よく分からなかったという生徒もいたりするなど課題が残った。

イ 考える時間を多く取り、ワークシートの記述欄を普段より多くしたことで、生徒にじっくり考えさせて記述させることができたが、文章で整理しまとめて記述できる生徒と記述することを苦手とする生徒では、記述に要する時間に差が見られ、指導の工夫が必要であると思った。

本時の授業時間内では、記述を苦手とする生徒が少しでも持続した学習意欲をもって授業に取り組めるように、発言した生徒の内容を整理して板書するなどして、生徒が何をすべきかが分かるように声掛けしながら授業を展開したが、文章の記述を苦手とする生徒への支援が十分にできなかった。

(7) 成果と課題

ア 学習目標と学習目標の達成状況を示すことによる生徒の変容

ワークシートに記述したり、教師の発問に対して発言することが苦手な生徒に対して、生徒の思考・判断・表現力を育む学習活動を活性化させる学習評価を行うために、ワークシートに授業における学習の目標を明確に示し、通常よりも考えたり書かせたりする学習活動を意図的に多く取り入れた。その結果、通常の授業より生徒の発言が活発になり考えようとする意識が高まった。また、生徒が他者の発言に対して言葉の意味について質問するなど、言葉や語彙について生徒が考えるきっかけにもなった。

個々の生徒の学習目標に対する達成状況を評価しながら授業を展開した。また、他者の発言を聞き逃すことなく、ワークシートに記述させることで、様々な考え方があることを理解させ、より生徒自身の思考を深めさせることができた。他者の意見を聞くことで、自分の考え方に自信をもち、ワークシートの記述内容がいつもより充実した生徒が多かった。

自己評価を通して授業を振り返り、学習目標がどの程度達成できたか生徒に判断させたところ、約79.8%の生徒が学習目標を達成できたと回答した。この結果を踏まえ、次の授業の展開について工夫・改善すべき点について検討することができた。

イ 生徒の思考を深め、表現させるためのワークシートの工夫

生徒に文章で表現させる過程では、教師がキーワードを設定するか、生徒に考え記述させたい事柄について項目を分けた上で、順序立てて文章にまとめさせる方がよかった。

また、一定の文章量を記述させられるよう記述欄に罫線を引くなど工夫すべきであった。生徒によって考えをまとめる時間や記述量に差があったりしたため、個々の生徒の考えを十分に引き出せていないと感じた。

以下に授業で活用した「架空請求メール」の事例を示す。

差出人：○○○@○○○.ne.jp

(株)○○○○○ 03-****-****

顧客担当：○○

早速、本題に入らせて頂きます。弊社はサイト運営会社より依頼を受け、料金滞納者様の調査などを行っております。現在、お客様がご使用の携帯端末より以前ご登録された【モバイル情報コンテンツ】の管理会社様より弊社に【身辺調査依頼】が入りましたのでご報告させていただきます。無料期間中に退会処理がとられていない為、登録状態のまま放置が続いております。このまま放置されますと発信者端末電子名義認証を行い、電子消費者契約法に基づき、法的措置を行う為の身辺調査に入らせて頂きます。

調査了承後、後日回収機関により、調査費 回収費用 含めご自宅 お勤め先 第三者への満額請求と変わる場合もございます。

身辺調査の開始・法的措置への移行の前に双方にとってより良い解決に向かう為、詳細の確認、和解、相談等ご希望の方は翌日営業日正午までにお問い合わせ下さい。

※尚、本通知を最終通告とさせていただきますのでご了承お願い致します。

以下に、授業で使用したワークシートに対する生徒の記述内容の一部を示す。

<p>【今日のまとめ】</p> <p>・身の回りでは様々な消費者トラブルが起っています。トラブルに巻き込まれないためにはどうすればよいか、まとめましょう。</p>	
あなたの考え	他の人の考え
<p>*学習目標の達成状況… 消費者トラブルについて理解し、適切な対応をいくつか挙げ、文章できちんとまとめることができる。</p>	
<p>【自己評価】</p> <p>・当てはまる項目に○を付け、理由を書きましょう。</p>	
「契約」について理解できましたか。	<p>・よく理解できた ・まあまあ理解できた <input checked="" type="radio"/>あまり理解できなかった ・全く理解できなかった</p> <p>その理由 ・他の人の考え方も聞くことができ、より理解できた。</p>
トラブルに巻き込まれそうな場面で、どういう行動をとればよいか、考えることができましたか。	<p>・<input checked="" type="radio"/>かなり考えた ・まあまあ考えた ・あまり考えなかった ・考えることができなかった</p> <p>その理由 ・自分が当事者になった時のことを考えたから</p>
トラブルに巻き込まれない自信ができましたか。	<p>・ぱっちり <input checked="" type="radio"/>たぶん大丈夫 ・ちょっと自信がない ・巻き込まれそう</p> <p>その理由 ・本当にそうなった時に行動をとれるか、少し不安</p>
今日の授業と、他の人の発言を聞いて、授業の前より理解や考えが深まりましたか。	<p><input checked="" type="radio"/>かなり深まった ・まあまあ深まった ・あまり深まらなかった ・全く深まらなかった</p> <p>その理由 ・自分で思いつかないことも聞いて参考にすることができたから</p>
<p>・今日の授業を通して、新たに気付き、考えたことは何ですか。</p> <p>○考えて行動をした方がよいということ。その場だけの考えではなく、よく考えてから行動しようと思った。</p> <p>○断ることが苦手なので気を付けたい。</p> <p>○簡単に契約するものじゃないと思った。契約について知らなかったのでいい機会だった。</p>	
<p>・他の人の意見を聞いて、どのようなことを考えましたか。</p> <p>○他の人と自分では考えることが違うので、そういう対策もあるんだと思った。</p> <p>○自分以外の対処法を教えてもらえてためになった。あーその考え方もあるか・・・と思いました。自分では思いつかないことを聞いて良かった。</p> <p>○すごいなって。でも意味のわからない言葉が多かったから語彙を増やしたいです。</p> <p>○どうやって行動するかなどが分かって、自分の考えも変えていこうと思いました。</p>	
<p>・今日の目標への達成状況はどれくらいですか。(％とその理由) → %</p> <p>理由</p> <p>○あいまいなところも理解でき、自分の守り方も学べた。(達成状況 70%)</p> <p>○かなり深く考えることができた。(達成状況 80%)</p> <p>○シミュレーションできたので、あとは実践したら100%だと思います。(達成状況 80%)</p> <p>○今日は自分でも頭が回ったほうだと思う。(達成状況 80%)</p> <p>○今日の授業で習ったことが、きちんと理解できたことと考えて行動する大切さを知りました。(達成状況 100%)</p>	

実践事例3

科目名	家庭総合	学年	1 学年
-----	------	----	------

(1) 単元（題材）名、使用教材（教科書、副教材）

- ア 単元名 第1章「人生をつくる」① 私たちの生き方と課題
- イ 教科書 「家庭総合 ～ともに生きる・未来をつくる～」
- ウ 副教材 「ニュービジュアル家庭科 2013」

(2) 単元（題材）の指導目標

- ・ 人が生まれてから生涯を終えるまで、各ライフステージの特徴と課題について理解する。
- ・ 青年期の生き方を考え、青年期の課題である自己理解や自立、適切な意思決定の必要性について理解する。
- ・ 家族・家庭の意義や家族・家庭と社会の関わりについて理解し、社会・家庭における男女の役割の特徴について理解する。
- ・ 家事労働、職業労働の意義と特徴や課題について理解するとともに、家庭生活を支える社会制度や福祉のしくみについて理解する。
- ・ 家庭や地域の生活課題を主体的に解決し、地域社会の一員として生活の充実向上のための適切な判断力を養う。

(3) 評価規準

	ア 関心・意欲・態度	イ 思考・判断・表現	ウ 技能	エ 知識・理解
単元の評価規準	家族や家庭生活の営みを人の一生との関わりの中で捉え、青年期の生き方、家族や家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりなどに関心を持ち、男女が協力して家庭を築くという視点から主体的に学習活動に取り組んでいる。	生涯発達の視点から、青年期の課題や家族・家庭と社会との関わりについての課題を見だし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、表現している。	事例研究などを通して、家族や家庭生活の在り方などについて検討するために必要な情報収集・整理ができる。	生涯発達の視点から、青年期の課題、家族・家庭の意義や社会との関わりなどについて理解し、人の一生を自分の問題として捉えるために必要な知識を身に付けている。

(4) 単元（題材）の指導と評価の計画（12時間扱い）

時間	学習活動	評価の観点				評価規準 (評価方法など)
		関	思	技	知	
第一次	私たちの一生と発達課題（2時間） ・グループワークで「ジョハリの窓」を行い、自己理解をする。 ・ライフステージとライフイベント、その発達課題を理解する。 ・自分のライフステージを完成させ、人生設計について考える。	●			●	・生涯発達の視点で各ライフステージの特徴と課題について関心を持ち、理解している。（観察、ワークシート） ・生涯発達の視点で、青年期をどのように生きるかについて具体的に考え、まとめている。（ワークシート）
第二次	青年期の課題と意思決定（2時間） ・自分が大人になったと感じる時を踏まえ、生活課題について考える。 ・青年期の課題と4つの自立について理解する。	●			●	・青年期の課題や家族・家庭についての学習を自分の問題として捉え、生涯を見通して考えようとしている ・青年期の自立や自立した生活を営むための

	学習活動	評価の観点				評価規準 (評価方法など)
		関	思	技	知	
						生活課題に対応した意思決定の必要性を理解している。
第三次	家族・家庭とは、家族・家庭の機能 (2時間) ・現代の家族の形態と家父長制家族の違いと特徴について理解する。 ・家庭の機能と現代の傾向、原因について理解する。				● ●	・現代の家族の特徴や家庭の機能について、歴史的・文化的・社会的変化との関連から理解している。(ワークシート)
第四次	家族・家庭と法律 (2時間) ・出生から死亡まで家族に関わる法律やその届出について理解する。 ・親族の範囲と法定相続について理解する。 ・民法改正の動きについて収集した新聞記事を参考にグループワークをし、現状について考える。 ・結婚クイズを解き、確認をする。			●	● ● ●	・事例研究や演習などに必要な資料を収集したり、調査したりすることができる。 ・婚姻、夫婦、親子等に関する法律の基本的な趣旨を理解している。 (観察、ワークシート)
第五次 (本時)	仕事と生活の調和 (2時間) ・労働の種類とその特徴について理解する。 ・女性の労働力率の変化と国際比較について考え、理解する。 ・「あなたが家庭をもった場合、どのような働き方をしたいか」というテーマでグループワークによる話し合いをする。		●		● ●	・男女共同参画社会について具体的に考えようとしている。 ・男女共同参画社会の実現を推進し、男女が相互に協力して家庭を築くことについて具体的に考え、まとめたり、発表したりしている。 ・職業労働の在り方について、仕事と生活の調和という視点で考え、まとめたり、発表したりしている。 ・家事労働と職業労働の意義と特徴、現状と課題について理解している。 (観察・ワークシート)
第六次	男女の平等と相互協力、家族・家庭を支える社会保障制度 (2時間) ・社会保障制度の四つの柱と特徴について理解する。 ・多様なライフスタイルと暮らし方について考える。				● ●	・家庭生活を支える社会制度や社会福祉の基本的な理念を理解している。 (観察・ワークシート)

(5) 本時 (全 12 時間中の 9、10 時間目)

ア 本時の目標

(ア) 労働の重要性を理解し、将来の働き方や男女共同参画社会について考えることを通して、自己の考えを深める。

(イ) グループワークを通して、自己の考えを発言したり、他者の意見を聞いたり、相互評価を適切に行うことにより自己の思考力・判断力・表現力を育む。

イ 本時の展開

課程	時間	学習活動	指導上の留意点・配慮事項	評価規準・方法 (ア～エ)
導入	10分	・持ち物の確認 ・板書とワークシートにより本時の学習目標、学習内容を確認する。 ・前時のアンケート結果を知り、テーマ「あなたが家庭をもった時、どのような働き方をしたいか」について自分の意見、理由を記入する。 ・各意見を発表する。	・教科書、資料集、ノート (プリント) を確認させる。 ・本時の流れを説明し、学習目標を確認させる。 ・前時のアンケート結果を提示する。	イ (観察)
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">労働の重要性を理解し、将来の働き方を選択できるようになる</div>				

課程	時間	学習活動	指導上の留意点・配慮事項	評価規準・方法 (ア～エ)
展 開	80分	<ul style="list-style-type: none"> ・「何のために働くのか」について考え、発言する。 ・労働の種類、家事労働と職業労働の違いを知り、家事労働の外部化について理解する。 ・日本女性の労働力率の傾向をグラフを見て読み取り、ワークシートに記入する。 ・背景について考え、理由を理解する。 ・M字型就労とその要因をまとめる。 ・世界女性の労働力率を資料集で確認し、M字型就労との比較をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発問し、指名し発言させる。 ・具体的な労働を例示する。 ・労働力率について昭和50年(1975年)と平成22年(2010年)に着目させる。 ・スウェーデンを例に読み取らせる。 ・子育て支援制度の違いを説明する。 	エ (観察、ワークシート)
		<p>グループワークをする。</p> <p>①現状を踏まえ、再度「あなたが家庭をもった時、どのような働き方をしたいか」について自分の意見を記入する。</p> <p>②どのような働き方が良いか、グループごとに与えられた視点の立場で考え、意見をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人ずつ意見、理由を発表する。 ・班員は意見を聞き、班の意見をまとめる。 <p>③各班ごとに発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視点を黒板に掲示する。 ・視点、意見、理由、問題点について話す。 ・発表班以外の班員は意見を聞き取り、相互評価する。質問をする。 <p>④相互評価用紙を交換する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男性の労働力率、育休取得率、育児時間を確認する。 ・相互評価、各視点の立場からの意見、提示されたデータを聞いて新たに気付いたことをワークシートに各自論述する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに記入した最初の意見との変容を記入させる。変化しなければ、それでも良いことを伝える。 ・3分で記入することを伝える。 ・各班に視点を与え、その立場でグループワークによる話し合いをさせる。 ①「少子化～ストップ少子化のためには」 ②「男性の社会参加～育休はなぜ取得しにくいのか～」 ③「女性の社会参加～男女平等フック～」 ④「家事の分担～家事は女性がやるものか～」 ・グループでの意見発表は一人1分で5人行う。意見をまとめ、記入する時間は10分であることを伝える。 ・発表の順番と一人1回発言すること、各班の発表時間は2分であることを伝える。 ・発表後の用紙記入時間を1分設ける。 ・相互評価用紙を班内で確認させる。 ・各班の発表終了後、各データを提示する。 ・10分で論述させる。 	イ (観察)
まとめ	10分	<ul style="list-style-type: none"> ・班を元の形態に戻す。 ・本時の学習内容を振り返り、学習評価欄に記入する。 ・次時の学習内容を知る。 ・ワークシートを提出する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体発表の講評をする。 ・次時の予告をする。 	

(6) 本時の振り返り

ア 本時の授業は家族・家庭分野に関する学習を通して得た知識を基に、高校生が将来の働き方を自分のこととして捉え考えられるよう、現代日本の労働力率や働き方に関する新聞記事、将来描いている理想の家庭生活などを基に授業を展開した。

イ 授業を展開するに当たり、自己の考えを深め、変容が分かるようにするため導入時、講義後と2回自分の意見を記述できるようにした。将来の働き方について考えるため、日本の労働力率の中でも特に女性の労働力率に焦点をあて展開することにより、将来働くことを予想し、自分とパートナーが築く将来の生活に置き換え、考えを深めることができた。また、生徒の変容について、ワークシートの記述より読み取ることができた。下記はワークシートに記載された生徒の感想の一部である。

- ・普通に結婚して幸せな家庭で生活したいと思ったけれど、女性も働いて男性も働いて平等にやっていくことが大切なんだと思った。女性の労働力率が出生率と関係あると思わなかった。結婚したら子供と一緒にいて家にいると思っていたけど、働き続けたいと思った。
- ・私は働く女性はかっこいいと思うし、好きな仕事は続けたいと思うからやっぱり意見は変わらない。でも、スウェーデンのように働きやすい環境を日本も作っていかないといけないと思った。

ウ 生徒が、何を話し合わなければならぬのかと悩むことなくグループ学習に取り組めるようにすること、話し合いによる学習活動を教師が適切に評価できるように、話し合いの視点を四つ設けるなどした。視点を設けたことにより、それぞれのグループで話し合いの主旨が明確になり話し合いが活性化した。

また、グループ内での発表とクラス発表の2回行うことにより、他者の多様な考えを聞いて、自分に置き換えて考えたり、より分かりやすく具体的に発表しようとする生徒の姿を見ることができた。

(7) 成果と課題

ア 論述や発表学習を繰り返し行う学習の効果について

検証授業後のアンケートでは、論述や発表を取り入れた授業を通して「自分の考えが深まった」と答えた生徒が31.6%、「よく考えた」と答えた生徒が44.7%と全体の約7割の生徒が思考を深めることができた。また、「新しい考えを知ることができた」と答えた生徒が63.2%であった。グループ内での発表、クラスでの発表と複数の発表の場を設定することによって、自己の考えを整理し考えを深めていく生徒が多かったことから、発表や話し合いの仕方を丁寧に指示し、回数を重ねることにより、より効果的な話し合いになると考えられる。

生徒の中には、グループで話し合いをしたことで、以下のような記述をしている。

- ・人と話し合うことは大変だと思いました。自分の意見を言うのも、相手の意見を聞くのも大切だと思いました。
- ・みんなの考え方が知れた。もっと考えなければいけないと思った。
- ・他の人との意見が違うこともあり、いろいろ考えられた。
- ・自分の考えていたこととは違った意見がいろいろとでて新しい考え方もつことができた。
- ・話し合いに積極的に参加できた。もう少し自分の意見を言いたかった。

本時の学習目標（本時のねらい）の達成率は69.7%であったが、生徒の感想から推測すると、話し合いのテーマが難しいと捉えた生徒もいたようである。

イ 学習目標の達成状況を示すことによる生徒の反応

学習目標のよりよい達成状況について説明しワークシートに示したところ、ワークシートの記述の取組がよくなり、特に、論述では8割以上の記述を達成している生徒が8割を占め、通常時より多かった。日頃の授業時にも口頭で学習目標に対する達成状況を伝えているが、ワークシートに記載することにより、生徒も達成状況を確認しながら取り組むことができた。

生徒によっては、学習目標の達成状況を示すことによって、取り組みやすいが、教師がどのような評価をするのかが分かるので、なんだかつまらないという生徒もいた。

ウ 生徒が考えをまとめ記述させるために必要な授業時間の確保について

論述、発表の時間には、生徒からも「もう少し時間が欲しかった」という意見も多くあり、思考力・判断力・表現力を深めるために時間を確保するなど、今後の検討・改善の余地がある。

また、生徒によってはワークシートへの記述が多いことに視覚的に抵抗を示す生徒もおり、取り組みにくい生徒もいた。

以下は、授業で使用したワークシートを示す。①及び②については、実際の生徒の記述の一部を示す。

*** 話し合いを終えて**

①今日の授業を受けて新たに気づき、考えたことは何ですか。

・今日は自分たちの考え（家族）だけでなく、男子の本音なども聞いたので新鮮でした。でも、やっぱり女子は支える側としての意見が多かったので、どちらでもできるようにしておきたいです。
・子育ては、男性と女性の気付き合うバランスが大事だと思いました。
・自分たちにあった夫婦生活は何かというのを考えた。
・やっぱり男性も育児休暇をしっかりとるとよいと思う。それが父と子の距離を縮めてくれると思う たし女性にも働きやすい環境なんだと思った。

②今日の目標（労働の重要性を理解し、将来の働き方を選択できるようになる）の達成状況はどうでしたか？

(平均) 69.7%	理由
	・将来どうしていきたいか、具体的に考えることができた。
	・自分の将来をしっかりと考えてみるのができたけれど、まだまだ考えの浅いところがある。
	・理解できたこともあるし、できないこともありました。
	・自分の考えが深められなかった。
	・勉強して将来の幅を広げたい。
・いろいろな意見がでてよかったけれど、あまりはっきりしない答えが多かった。	

①家事労働と職業労働の違いについてわかったか	・よくわかった・わかった・あまりわからない ・全くわからない
②日本はなぜ家事時間の男女差が多いのか考えられたか	・よく考えた・少し考えた・あまり考えなかった ・全く考えなかった
③女性の労働力率の変化と要因について考えられたか	・よく考えた・少し考えた・あまり考えなかった ・全く考えなかった
④家事の重要性和分業の大切さについて考えられたか	・よく考えた・少し考えた・あまり考えなかった ・全く考えなかった
⑤話し合いを受けて自分の考えが深まりましたか	・自分の考えが深まった ・新しい考えを知ることができた ・あまり考えられなかった ・全く考えられなかった

「新しい考えを知ることができた」という項目を加えることで、自分の考えが深まったほか、思考の広がりを実感させることができたかどうかを確認することができた。生徒は、四つの項目のなかで、「新しい考えを知ることができた」を選択するものが多い傾向が見られた。

③学習目標のよりよい達成状況

① 1と2の達成状況 A ・ B ・ C ・ D	<input type="checkbox"/> 自分の意見と理由を明確に述べている。 <input type="checkbox"/> 班員に発表できている。
② 3の達成状況 A ・ B ・ C ・ D	<input type="checkbox"/> 自分の意見と理由を明確に述べている。 <input type="checkbox"/> クラス全体に分かりやすく発表できている。 <input type="checkbox"/> 他の意見や理由をよく理解し、質問することができている。
③ 4の達成状況 A ・ B ・ C ・ D	<input type="checkbox"/> 話し合いを通じて自分の意見を精査し、論述することができている。 <input type="checkbox"/> 相互評価、講評を受けての感想が十分論述できている。(8割)

1年 組 番 名前

実践事例 4

科目名	家庭総合	学年	第2学年
-----	------	----	------

(1) 単元（題材）名、使用教材（教科書、副教材）

- ア 単元名 第1部 とともに生きる 第3章 高齢者とともに
1 高齢者について考えよう
- イ 教科書 「新家庭総合 とともに生きる くらしをつくる」

(2) 単元（題材）の指導目標

- ・ 高齢者の生活と福祉などについて理解するとともに、様々な人々に対する理解を深め、生涯を通じてともに支え合って生きることの重要性や家族、地域や社会の果たす役割について認識する。
- ・ 高齢期の社会保障のうち公的年金制度について理解し、保険料の支払について考える。

(3) 単元の評価規準

	ア 関心・意欲・態度	イ 思考・判断・表現	ウ 技能	エ 知識・理解
単元 の 評価 規準	生涯を見通して高齢期の生活について考えようとしている。	高齢者や高齢者の取り巻く社会の課題について、具体的に考え、まとめたり発表したりしようとしている。	自分の住む地域の高齢者福祉サービスについて、調査したり、整理したりすることができる。	我が国の高齢化の特徴や住居地域の高齢化の状況を踏まえ、高齢者福祉の基本的な理念や家族の役割、高齢者福祉サービス、高齢者施設などについて理解している。

(4) 単元（題材）の指導と評価の計画（4時間扱い）

時間	学習活動	評価の観点				評価規準 (評価方法など)
		関	思	技	知	
第一次 (本時)	1 高齢者について考える (2時間) ・ 高齢社会の現状を理解する。 ・ 公的年金制度を知り、人生設計について考える。	●	●			<ul style="list-style-type: none"> ・ 生涯を見通して高齢期の生活について考えようとしている。(観察、ワークシート) ・ 高齢社会の現状と高齢者を取り巻く社会の課題について考え、まとめたり、発表したりしている。(観察、グループワーク) ・ 高齢者が社会の一員として自立した生活を送ることの重要性について理解している。(観察、ワークシート)
第二次	2 高齢者と触れ合おう(2時間) ・ 日常生活の介護について知る。 3 高齢社会と高齢者の福祉を考える ・ 高齢者の自立を支える社会福祉について理解する。			●	●	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日常生活に必要な基本的介助ができる。(観察ワークシート) ・ 自分の住む地域の高齢者福祉サービスについて、調査したり、整理したりすることができる。(観察ワークシート) ・ 我が国の高齢化の特徴や住居地域の高齢化の状況を踏まえ、高齢者福祉の基本的な理念や家族の役割、高齢者サービス、高齢者福祉施設などについて理解しようとしている。(観察ワークシート)

(5) 本時 (全4時間中の第1・2時間目)

ア 本時の目標

(ア) 学校所在地である足立区の高齢者率の現状や公的年金制度のしくみについて知る。

(イ) 自分の意見を明確にもち、グループ学習を通じて発表をする。

イ 本時の展開

過程	時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準・方法 (ア～エ)
導入	5分	<ul style="list-style-type: none"> 本時の目標を記入し、活動内容を理解する。 学習目標の達成状況を確認し、学習姿勢を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> 1学期の学習内容を復習させ、本時の学習目標と学習内容を提示し、記入させる。 よりよい学習目標の達成状況を明確に伝え、生徒に学習の取り組み方を示す。 	ア (観察)
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 高齢社会の現状を理解し、年金制度について考える。 </div>				
展開1	45分	<ul style="list-style-type: none"> 高齢社会の現状について、資料で考察し、記入する。 <ol style="list-style-type: none"> 高齢者の年齢 日本の平均寿命 足立区の高齢者率 老齢年金での試算例を確認し、保険料を納めるかを考える。 公的年金制度では、老齢年金以外に障害年金、遺族年金があることを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者の年齢や日本の平均寿命を資料から読み取りをさせ、1学期の復習をさせる。 学校所在地である足立区に焦点を置き資料による読み取りをさせたため、資料の見方を説明する。 平均余命について、確認させ保険料を納めていることで老後の生活が安定し、試算による受給金も確認させる。 公的年金制度は、若い世代にも活用できることを確認させ、保険料を納めることの大切さを考えさせ、メリット、デメリットを記入させる。 休み時間に次時のグループ学習の進め方について班長を集め説明する。 	イ (観察、ワークシート)
休憩 10分 (各班の班長とグループ学習の打合わせを行う。)				
展開2	15分	グループ学習 <ul style="list-style-type: none"> グループ活動の中で年金保険料の支払について考え、メリット、デメリットについて話し合う。 <ol style="list-style-type: none"> 年金の損得について 年金について話し合う 発表シートに記入・作成 	<ul style="list-style-type: none"> 年金の保険料を支払うことで生涯を考えた時、どのようなメリットやデメリットがあるか考えさせる。平均寿命や障害者、遺族になった時など資料から読み取らせ、生徒間で話し合い活動を行わせる。 班の役割を決めさせ、発表の準備を行わせる。活動内容を評価する。 	イ (観察)
展開3	25分	<ul style="list-style-type: none"> 発表者は、前に出てグループでまとめたことを発表する。 (1班：3分程度、全体で8班) 	<ul style="list-style-type: none"> 発表をする際の注意点、聴く態度について注意を促す。 (注意点) <ol style="list-style-type: none"> ①一人1回は発言する。 ②明確に視聴者に伝えられるように大きな声で言う。 ③視聴者は静かに聴き、ワークシートを記入する。 発表した班の分かりやすかった点を褒め、次の班につなげられるようにする。また、発表シートは、黒板に掲示し、確認ができるようにする。 	イ (観察)
まとめ	10分	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価をする。 アンケートを記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の内容を確認させ、自己評価をさせ、記入させる。 本時の授業のアンケートを記入させる。 	イ、エ (観察、ワークシート)

(6) 本時の振り返り

ア 発表学習を行う前に、生徒に日本の高齢化率の現状について理解を促すため、日本や生徒の居住している地域として足立区の高齢化率について、資料から考察させるようにした。

また、公的年金制度が保険料を納めることと国税から成り立っていることを理解させ、高齢化率の数値から、年金制度の課題についても考えられるようにした。

発表学習の前に基礎的な知識を理解することができたかどうか、生徒のワークシートの記述内容、発言や授業の取組から評価し、グループ内の話し合いが活発になるようにした。

年金の保険料については、基礎年金に焦点を置き、老齢年金だけと捉えがちな考えを別の観点である遺族年金、障害年金についてのリスクも考えられるように資料を提示した。

ワークシートは、資料に基づいて細かな設問を設定することで、生徒の記述を促すことができた。しかし、比較する資料の提示不足により、生徒の視点を狭める結果となり、理解度への影響もあったのではないかと感じた。

イ 発表準備として、事前にグループを提示し、班の中心となる生徒を指名した。班活動を決められた時間内で効率よく展開させるために、学習した内容を生徒同士で共有させ、理解を深めることができるように、生徒自身のワークシートと同じものを発表用ワークシートとして準備した。発表用ワークシートは、生徒に何を話し合い、まとめるかという学習活動を明確に提示することができ、生徒の発表内容も学習内容を踏まえた理解しやすい内容であった。

発表は、一人1回発言することとした。ワークシートに基づき発言させることで、生徒もスムーズに発表することができ、効率よく授業を展開できた。

(7) 成果と課題

ア 生徒の思考を促す設問の設定と自己評価、相互評価の在り方

生徒の思考を促すために、ワークシートの設問を「～と思いますか。」などと問い掛ける設問にしたところ、生徒は率直な意見を記入することができたと感じる。しかし、ワークシートの設問を多くしたところ、短文で記入してしまう生徒、記入欄の分量が少なすぎてしまう生徒などが見られたため、生徒の能力や実態に合わせ工夫が必要であることを実感した。

授業に対する自己評価、発表学習に対する相互評価をすることで、生徒の考えが深まり課題を解決しようとする力が感じられた。以下に示したものは、生徒が作成した発表シートの記入内容の一例である。

班で発表の準備、話し合いをする () 班メンバー ()	
1 高齢化の現状について	<ul style="list-style-type: none">・少子高齢化が進んでいる。(平成23年から25年の間で1%増えている)・人口は減っているが、後期高齢者は増えている。
2 年金について	理由 <ul style="list-style-type: none">・義務であり払わないと貯蓄したお金が底をついてしまう。・平均寿命以上まで生きた場合、得をする。・自分が亡くなっても、家族にお金が入る。
3 将来について	<ul style="list-style-type: none">・どれだけ楽しく長生きできるか考える。・今の生活よりも、老後のことを考えて貯蓄する。・高齢になった時のために働いて年金を払う。そのために安定した職に就けるようにする。

イ 学習目標の達成状況を示した効果について

授業の導入で本時の目標を明確に提示したことで、生徒は学習内容を予測して取り組むことができ、効果的であった。また、今回、学習目標の達成状況を生徒に示したところ、反応が大きく、評価に反映されることに敏感であることを改めて実感した。

生徒に、授業のねらいとどこまでできることが求められているのか学習目標の達成状況を示すことで、生徒は何を考えなければならないのかが理解しやすく、ワークシートの記述もスムーズに取り組めることが分かった。

しかし、生徒の中には、教師の評価を気にしすぎた結果、教師が求める回答をしようとする生徒も見られた。記入についても授業の進度に合わず、一步遅れている生徒もいたりするなど、記入時間を確保し、自分の考えをしっかりと記入できるような環境づくりも必要であると感じた。

ウ 学習を振り返り、次の学習活動につなげるための自己評価と相互評価について

授業で発表学習を取り入れることで、自分の考えを表現し、他者の意見を聞き、自分と他者の意見を再度見直すことで、分かったことなど考えを深める機会を設けることができた。

また、授業のまとめで授業の感想や気付いたことを記入させたことにより、生徒の考えが深まっている記述が見られた。また、アンケートを実施した結果から、生徒の授業に対する取組にも変化が見られた。

以下に示したものは、アンケートの設問及びまとめで記述させた内容である。

学習目標の達成状況	
A・B・C・D	<p style="text-align: center;">【学習目標の達成状況】</p> <p>○自分の居住している地域の高齢化について知ろうとしている。 ○年金について、社会の一員として考え、文章で記入している。 ○班の話し合い、発表、他者の考えを聞き、自分の考えをまとめようとしている。 ○学習の目標を踏まえて、自己評価・相互評価を適切に行っている。</p> <p style="text-align: center;">A…よくできている B…できている C…もう少し D…努力が必要</p>

自己評価の内容	生徒の回答（生徒数 39名）								
1 今回の高齢者の現状と年金について、自分の考えや意見を書くことで考えが深まりましたか？	<table border="1"> <tr><td>A 大変深まった</td><td>64.1%</td></tr> <tr><td>B やや深まった</td><td>20.5%</td></tr> <tr><td>C わからない</td><td>0%</td></tr> <tr><td>D あまり深まらない</td><td>0%</td></tr> </table>	A 大変深まった	64.1%	B やや深まった	20.5%	C わからない	0%	D あまり深まらない	0%
A 大変深まった	64.1%								
B やや深まった	20.5%								
C わからない	0%								
D あまり深まらない	0%								
2 授業の最初に、学習目標の達成状況を示したことで意欲的に授業に参加しようと思いましたか？	<table border="1"> <tr><td>A 大意欲的に取り組めた</td><td>58.9%</td></tr> <tr><td>B やや意欲的に取り組めた</td><td>25.6%</td></tr> <tr><td>C わからない</td><td>0%</td></tr> <tr><td>D あまり深まらない</td><td>0%</td></tr> </table>	A 大意欲的に取り組めた	58.9%	B やや意欲的に取り組めた	25.6%	C わからない	0%	D あまり深まらない	0%
A 大意欲的に取り組めた	58.9%								
B やや意欲的に取り組めた	25.6%								
C わからない	0%								
D あまり深まらない	0%								
3 話し合い活動や発表（他者の意見を聞く）をすることで、自分の考えが深まりましたか？	<table border="1"> <tr><td>A 大変深まった</td><td>56.4%</td></tr> <tr><td>B やや深まった</td><td>28.2%</td></tr> <tr><td>C わからない</td><td>0%</td></tr> <tr><td>D あまり深まらない</td><td>0%</td></tr> </table>	A 大変深まった	56.4%	B やや深まった	28.2%	C わからない	0%	D あまり深まらない	0%
A 大変深まった	56.4%								
B やや深まった	28.2%								
C わからない	0%								
D あまり深まらない	0%								

班での話し合い、発表を終えて、新たに気付いたこと・感想
<p>・私は、年金は払う派だったけど、班の人の払わない意見を聞いて「ああ、確かにそうだな」と気付いた点があった。それは、「長生きできるか分からないのに、保障はないのに、なぜ払うのか」ということ。それに答えられるほどの知識もないことに気付いた。年金のことももっと詳しく知ろうと思った。他の人の意見を聞いても私はちゃんと払おうと思う。目先のことだけでなく、将来を見据えて生活設計を立てていこうと思った。</p>

班での話し合い、発表を終えて、新たに気付いたこと・感想

・みんな、やっぱり同じようなことを考えていた。でも1班だけ違う考え方をされていて、その考え方はすごく面白いものだった。年金はコツコツ払っていき、それで貯金もしっかりしていきたい。将来のことを考えるとやっぱり年金は、とても大事なものだとなった。自分と家族のためにもしっかり年金を払いたい。

VI 研究の成果

1 検証授業による成果

検証授業は、授業の導入時に次の点を生徒に理解させてから授業を展開することとした。

(1) 本時の授業の学習目標（ねらい）を示し、生徒に理解させること。

学習目標（ねらい）の示し方は、あらかじめワークシートに示しておき、教師が口頭で説明する方法と、学習目標を教師が板書し、生徒がワークシートに記述する方法とを取り入れ、生徒の実態に応じて理解させることとした。

(2) よりよい学習目標の達成状況をワークシートに示し説明すること。

あらかじめワークシートに検証授業における十分満足できる学習目標の達成状況を生徒に示すこととした。授業においてどのような学びを求めているのかを生徒に説明し、生徒に学習の達成状況を示すことで学習の見通しをもたせることとした。

以上の2点を導入時に実践することとし、それぞれの実践事例においては、以下のような成果が見られた。

実践事例1の保育に関する学習では、あらかじめ新聞記事を題材として話し合う学習活動を取り入れ、事前に生徒にテーマに応じた新聞記事等を収集させることで学習意欲を喚起し、十分に論述できるようワークシートを作成した。グループで話し合い、意見をまとめる過程においても、以下のような項目を設定することで、高校生として取り組めることを考えさせ、地域社会の一員として意識を向上させることにつながる事が分かった。

<p>2年家庭基礎 一子供・子育てを取りまく問題を考える②-</p> <p>()月()日 2年()組()番氏名()</p> <p>()班のメンバー氏名()</p> <p>テーマに基づいて班でディスカッションをしてみよう。</p> <p>1 現状と問題点</p> <p><input type="text"/></p> <p>2 今後の方策、改善策、自分たちができること(現在または将来) ※具体的に記入する。</p> <p><input type="text"/></p> <p>* クラス発表では一人一回は発言する。</p>

実践事例2の契約に関する学習では、携帯電話における迷惑メール等を題材として取り上げることで、生徒の関心を高めることとした。一人ひとりの思考を深めるようワークシートの設問を多くすることで、生徒の考えをその都度まとめさせ、他者の意見を共有することで記述が苦手な生徒も自信をもって記述できることが分かった。

実践事例3の家族・家庭、労働に関する学習では、実践事例1と同様にグループ学習を取り入れ、他者と意見交換をすることで、自己の考えを深めさせることができた。また、学習目標の達成に向けて、話し合う視点(①「少子化～ストップ少子化のためには」、②「男性の社会

参加～育休はなぜ取得しにくいのか～」、③「女性の社会参加～男女平等ランキング～」、④「家事の分担～家事は女性がやるものか～」を示すことで、話し合う内容が明確になり、学習活動が活発になった。限られた時間であっても、その時間内で学習効果を上げる方策として教師が様々に授業を工夫することが重要であることが改めて分かった。

実践事例4の高齢者に関する学習においては、検証授業において初めてグループでの発表学習を実践してみた。生徒は発表することに戸惑いも見せたが、グループ内のまとめ役として教師が班長を指名し、休み時間等に発表学習について、教師と班長の生徒で打合せを行うことで、生徒もグループ学習の進行の仕方が分かり、スムーズに学習活動を展開することができた。生徒に発表させる機会を設定することで、高齢期における経済の課題や自己の将来を踏まえた今後の生き方について、生徒が真剣に考えていることが分かった。班長に指名された生徒の一人は、「話し合いではみんなが積極的に意見を出してくれて、班長を任されたぼくは、とても助かりました。自分の思っていることは恥ずかしいけど伝えることは大事だと思った。」などとワークシートに記述していた。また、別な生徒は、「人前で発表したりコミュニケーションをとることができたので、将来のために役に立ってよかった。」と記述しており、発表学習は生徒にとっても印象深い授業であったことが分かった。

2 学習内容における自己評価及び相互評価における成果

生徒の自己評価、相互評価は、教師からの評価と異なり、生徒の授業への満足度や学習目標の達成度、理解度を確認することができる重要な要素であるため、本研究においても生徒の評価を次時の授業に生かすこととした。

思考力、判断力・表現力の観点について評価するため、ワークシートへの論述、発表学習や他者の意見や考えを聞く場面を設定するなど、生徒の言語活動を充実させるよう年間指導計画を立てることとした。このような学習活動を実践することで、より一層生徒の学習活動を多面的に評価することができ、教師が生徒の思考力・判断力・表現力を高めていく指導につなげていくことができると考える。

VII 今後の課題

1 題材構成を工夫した指導

例えば、事例1と事例3、事例2と事例4を関連付けた題材を組み込んで指導計画及び評価計画を作成することにより、限られた授業時数のなかで効果的な授業を展開することができる。個々の考えを整理し、他者と考えを共有したり、発表学習を行うためには、生徒に十分に考えさせる設問とともに考えを整理させる時間を確保する必要がある。そのためには、題材構成を工夫するなどして、生徒の学習活動の時間を充実させる工夫が必要である。

2 個の評価の工夫

授業中の学習活動における評価結果を記録する評価表を作成し記録したりして、授業後に行う評価とともに組み合わせて評価ができるよう工夫する必要がある。

3 評価結果を踏まえた指導の改善

個々の評価結果を生徒にフィードバックし、生徒にその後の授業に見通しをもたせたり、学習意欲を高めさせたりするなどの授業改善を図っていく。

平成25年度 教育研究員名簿

高等学校・家庭

学校名	課程	職名	氏名
都立足立新田高等学校	全日制	教諭	◎遠矢 美紀子
都立大江戸高等学校	定時制	主任教諭	古山 陽子
都立豊多摩高等学校	全日制	主任教諭	白川 桃子
都立永山高等学校	全日制	主任教諭	○野村 知世

◎ 世話人 ○副世話人

〔担当〕 東京都教育庁指導部高等学校教育指導課 指導主事 金澤 正美

平成25年度
教育研究員研究報告書

高等学校・家庭

東京都教育委員会印刷物登録

〔平成25年度第193号〕

平成26年 3月

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
電話番号 (03) 5320-6836
印刷会社 昭和商事株式会社